

## 0 理念・目的・教育目標

### 進捗状況報告

2007年度自己点検・評価結果および学内第三者評価・特別委員からの意見に基づき、進捗状況を述べると、まず、高度専門職業人の養成については、2008年3月、前期課程修了者52名のうち、14名が専修免許(中学・高校)を取得し、うち9名が教員職に就職した。後期課程修了者5名はすべて、中学・高校の教員もしくは大学の非常勤教員に就職した。次に、博士学位取得者については、課程博士(甲号)7名(うち2000年度以降の新制度による者は2名)、論文博士(乙号)3名の合計10名である。前期課程における教育学専攻内に設置している学校教育学コースの修了者は4名であった。さらに、外国人学生の積極的受け入れについては、後期課程において2008年4月入学の2名を新たに受け入れ、現在、学部・研究科で留学生は45名(学部生40名、博士課程後期5名)在籍している。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

なお、上記の諸事実の列挙は、2003年度に設定した目標群に基づき、点検評価した結果である。具体的には、前期課程学生の高度専門職業人としての養成、知的基盤社会を支える高度で知的な素養の高い学識を身につけた人材の養成は順調に推移している。また、前期課程の昼夜開講の学校教育学コースの修了者は4名で、ある程度安定的に運営されている。後期課程学生の博士学位の安定的かつ継続的輩出も少ないとは言えない。外国人留学生については、学部生が40名であるのに対して、院生は後期課程に5名在籍しているのみで、この点は今後より積極的に受け入れる方策を検討する必要がある。

### 学内第三者評価

事実の列挙にとどまっており、自己点検・評価活動の趣旨からすると記述内容は十分とはいえない。自身が掲げた目標に向けた活動を行っているのか、活動により掲げた目標がどの程度達成されているのか、活動により浮き彫りになった問題点があるのか、といったことを率直に見直し、Plan-Do-Check-Actionのサイクルをまわしていくことが求められる。具体的には、人材育成の事実のみが表記されているが、それとの関わりで研究科の教育目的・目標の適切性を自己点検・評価することが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
理念・目的・教育目標は明示されており、引き続き、高度専門職業人の養成や質の高い博士学位取得者の輩出に努められることが期待される。